

“首都圏は調整局面に、仙台圏はまだ上昇傾向”

不動産市場動向セミナー2023イン仙台

仙台圏などの最新不動産事情をセミナーで説明

首都圏は調整局面に、仙台圏はまだ上昇傾向

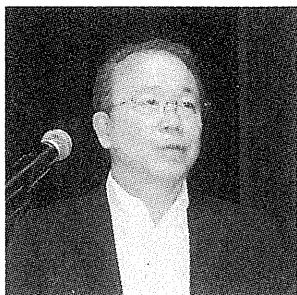
倉内代表



アセツブレインズ仙台 ネットワーク(事務局・仙台市泉区上谷刈1の7の35 佐々木正之事務局長)は、5月26日、仙台市青葉区のせんだいメディアアテックで、オープンセミナー「不動産市場動向セミナー2023イン仙台」を開催した。不動産や建設、金融関係者など約100人が参加した。セミナーは3部構成で行われ、第1部で不動産投資と収益物件の情報サイトを運営する健美家の倉内敬一代表取締役が「首都圏の投資用不動産の最新動向と金融情勢の変化について」と題して講演した。倉内代表は、「首都圏では不動産の物件価格がまだ上昇しているが、金融機関は投資家の自己資金の投入割合を増やさせたり、借入期間の見直しを図るなど調整局面を迎えている感じがする」、「とはいえ、金余りの状況は続いていて投資をしたい人の数は増えている」と話した。

仙台圏などの最新不動産事情をセミナーで説明

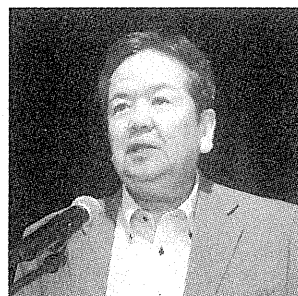
佐々木代表



元リクルート仙台支社長の佐々木篤シーカーズプランニング代表取締役は第2部で「仙台・宮城県の居住用不動産の最新事情と今後の見通し」について説明。佐々木代表は22年から23年初めにかけての仙台圏居住用不動産市場に関して「賃貸の今春の繁忙期はほぼコロナ前の状況に戻り、前年までは見られなかった募集賃料上昇エリアも出てきた。売買では旺盛な需要と融資環境を背景に価格上昇傾向が顕著で、成約数には天井感も見えてきている」と説明した。

アセツブレインズ仙台NW

佐々木事務局長



クの佐々木事務局長がマンションやオフィスなど仙台圏の最近のマーケットの趨勢について説明した後、「仙台・東北圏の投資用・事業用不動産の最新事情」について解説。同ネットワーク調査での仙台圏の投資・事業用不動産取引件数・金額が過去最高を記録した背景について「首都圏からの大型物件の購入と県内資本の旺盛な投資意欲が相まったため。1年以内の転売物件の成約も目立っている」と分析し、今後の見通しについて「物件不足の状況は継続していて物件価格が高止まりし下落は見込めない」、「首都圏は潮目が変わったと言われるが、仙台では現段階ではまだそうなっていない実感はない」と話した。